

【方法と結果】小児 FH ヘテロ患者 6 名 (5 名は前投薬あり) においてピタバスタチン投与前と 1mg, 2mg 投与後の脂質値の変化と副作用を評価した。LDLC は 1mg で 15%, 2mg で 27% 低下した。4 名は 2mg で LDLC 管理目標を達成した。TC は 1mg で 10%, 2mg で 20% 低下した。HDLC と TG は変化しなかった。全例で副作用症状はなく, CK は軽度上昇した症例はあったが正常範囲内で, AST, ALT は変化しなかった。

【考察】管理目標を達成しなかった 2 名は治療開始前の LDLC が高値だった。ピタバスタチンは LDLC を低下させるが症例により目標に達しない可能性がある。副作用の発現はなかった。小児 FH ヘテロにおいてピタバスタチンは安全で効果の期待できる薬剤と考えられる。

6 重症低血糖を契機に発見された IGF-2 産生腫瘍による NICTH の 1 例

張 かおり・金子 正儀・佐藤 陽子
松林 泰弘・松永佐澄志・岩永みどり
山田 貴穂・藤原 和哉・羽入 修
曾根 博仁・福田いずみ*・長嶋 洋治**
新潟大学医学部
血液・内分泌・代謝内科
日本医科大学 内分泌糖尿病代謝内科*
東京女子医科大学病院 病理診断科**

【症例】68 歳, 女性。

【主訴】低血糖。

【現病歴】2016 年 4 月話し方がおかしい等の異常に家族が気づき近医神経内科を受診, 頭部 CT は異常なし, 血糖 31mg/dl と低血糖を認めた。低血糖補正で症状改善, 重症低血糖の精査加療目的に入院となった。低血糖時 IRI<1.0 μ IU/ml, CPR 0.10ng/ml, IGF- I, GH も低値であった。負荷試験正常, 薬剤性等も否定的, CT にて左腎腹側に長径 10cm 大腫瘍を認め IGF- II 産生腫瘍が疑われた。腫瘍摘出後, 低血糖は消失した。Western blotting 法にて術前には大分子量 IGF- II を認めたが, 術後消失した。病理にて solitary fibrous tumor の診断, 免疫染色で IGF- II 陽性で

あった。

【考察】IGF- II 産生 NICTH は稀な疾患であるが, 巨大腫瘍性病変があり低血糖を呈する場合, IRI や IGF- I が低値であれば, その可能性を考える必要がある。

7 エラストグラフィーを使用した甲状腺結節診断

宮腰 将史・井上 浩子*

筒井内科クリニック
新潟県保健衛生センター*

甲状腺結節診断において, 触診での硬さも診断の重要な要素である。生体内の組織のひずみから相対的な硬さを高速演算する複合自己相関法が開発され, 近年甲状腺疾患の診断にも有用性が注目されている。

当院では, 平成 23 年 10 月より良悪性の鑑別が必要となる甲状腺結節全症例を対象に用手圧迫法, 複合自己相関法によるエラストグラフィーを施行している。判定には, Grade 分類を用いている。

平成 28 年度に当院で確定診断された甲状腺結節は, 乳頭癌 37 例, 濾胞腺腫 9 例, 濾胞癌 3 例, 腺腫様甲状腺腫 1 例, 未分化癌 1 例だった。乳頭癌は 1 例を除くすべてが Grade3 または 4, 濾胞癌はすべてが Grade3 または 4 だった。濾胞腺腫は, Grade1 または 2 が 56%, Grade3 が 44% だった。Grade3 は, 被膜や脈管に浸潤していない濾胞癌であった可能性も示唆される。

細胞診で診断困難な甲状腺濾胞癌の鑑別に, エラストグラフィーの所見は有用な情報と考える。

8 当院における妊娠糖尿病患者の産後追跡管理について

宗田 聡・川田 亮・渡辺 聖央
安楽 匠・阿部 正夫・森川 香子*
倉林 工*

新潟市民病院 内分泌・代謝内科
同 産科・婦人科*

妊娠糖尿病 (GDM) の発症率は約 12.1% とされ,